

〈小学校 道徳〉

目標や希望を持って生きる児童の育成

— 道徳の時間における資料活用や発問の工夫、家庭や地域との連携を通して —
うるま市立赤道小学校教諭 前 徳 守

I テーマ設定の理由

中央教育審議会答申（平成20年1月）の中で、我が国の児童生徒は、国際交流やボランティア活動等、社会に対して積極的にかかわっていこうとするよさがある一方で、自分への自信の欠如や自らへの将来への不安等の課題が指摘されている。学校教育には、こうした課題を視野に入れて、児童生徒一人一人に「生きる力」の核となる「豊かな人間性」を育む教育の充実が強く求められている。

学習指導要領「道徳」においては、小学校道徳の時間における目標に「自己の生き方についての考えを深めること」、中学年においては「自分の特徴を知り、そのよさを伸ばす」という内容項目が新たに加えられた。これは、道徳の時間に人間としての在り方や生き方の礎となる道徳的価値について学び、それを自己の生き方に結びつけながら自覚を深め、道徳的実践力を育成することを強調したものである。

さて、本学級の実態として、明るく素直であり、男女間の仲が良い等のよさがある反面、学習面や生活面における課題や児童本人が立てた目標に対して、ねばり強く取り組めなかったり、途中であきらめたり、誰かに頼る傾向が見られたりする。

本来、道徳は、自らを見つめ、自らに問い掛けることから出発すると言われる。しかし、私自身の道徳の授業を振り返ると、道徳の時間における特質を押さえないままに、教師自身の説話を中心とした授業展開が多かったように思える。また、教材提示の仕方や発問の甘さから、道徳的価値の自覚へ結びつけることが弱かった。

そこで、道徳の時間において、児童一人一人がより積極的な自画像を描き、未来に夢や希望をもって生きるための授業づくりを目指したい。そのために、その働きかけに重要となる資料の効果的な活用と発問の工夫を、本研究の柱として取り組んでいく。授業に活用する資料や教師の発問は、児童が道徳的価値の自覚を深めていくための手掛かりとして極めて大きな意味を持つばかりでなく、人間としての在り方や生き方などについて多様に感じ、考えを深め、互いに学び合うために重要な役割を持つことから、資料の効果的な活用や発問の工夫に努めていきたい。また、家庭や地域との連携を図りながら、道徳的価値の自覚を深めていきたい。

以上のことから、主題を「目標や希望を持って生きる児童の育成」、副題を「道徳の時間における資料活用や発問の工夫、家庭や地域との連携を通して」とした。

II 研究目標

児童に「目標や希望」を育む道徳の授業づくりを通して、道徳的価値の補充、深化、統合を図り、児童一人一人に望ましい自己の生き方を考えさせ、「目標や希望」を持って生きていこうとする児童を育成する。

III 研究仮説

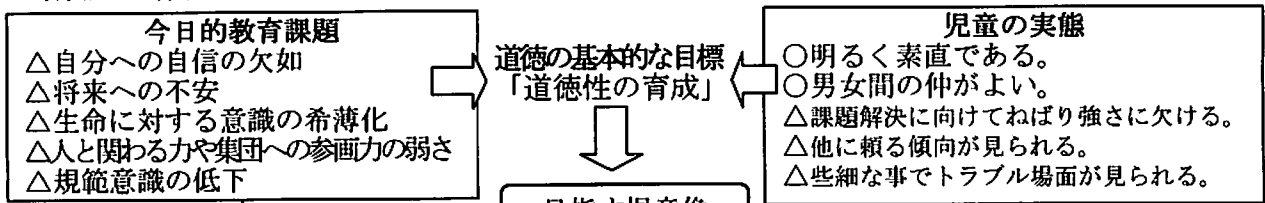
1 基本仮説

道徳の時間において、資料の効果的な活用や発問の工夫、家庭や地域との連携を図り、児童本人に自己を見つめさせることで、望ましい自己の生き方について考えることができ、道徳的実践力が培われ、「目標や希望」を持って生きていこうとする児童が育つであろう。

2 具体仮説

- (1) 児童が自分ごととして考えようとする資料を選定・活用し、児童本人に自己を見つめさせることで、望ましい自己の生き方を考え、「目標や希望」を持って生きようとする児童が育つであろう。
- (2) ねらいとする価値に迫る中心発問を精選したり、児童間の多様な価値観の交流を図ったりすることで、「目標や希望」を持って生きようとする児童が育つであろう。
- (3) 家庭や地域との連携を図ったり、身近な人材を活用したりすることで、児童の道徳的実践力が更に高まり、「目標や希望」を持って生きようとする児童が育つであろう。

IV 研究の全体構想図



目指す児童像

- ◎自分の特徴に気づき、そのよい所を伸ばしながら、「目標や希望」を持って生きる児童
- ◎自他の生命を尊重し、思いやりの心を持った児童
- ◎規範意識を身に付け、法やきまりの意味を理解し、主体的に判断し行動できる児童
- ◎社会生活に主体的に参加しようとする意欲と態度を身に付けた児童

研究テーマ：目標や希望を持って生きる児童の育成
～道徳の時間における資料活用や発問の工夫、家庭や地域との連携を通して～

基本仮説

研究仮説

道徳の時間において、資料の効果的な活用や発問の工夫、家庭や地域との連携を図り、児童本人に自己を見つめさせることで、望ましい自己の生き方を考えることができ、道徳的実践力が培われ、「目標や希望」を持って生きていこうとする児童が育つであろう。

具体仮説(1)

児童が自分ごととして考えようとする資料を選定・活用し、児童本人に自己を見つめさせることで、望ましい自己の生き方を考え、「目標や希望」を持って生きようとする児童が育つであろう。

具体仮説(2)

ねらいとする価値に迫る中心発問を精選したり、児童間の多様な価値観の交流を図ったりすることで、「目標や希望」を持って生きようとする児童が育つであろう。

具体仮説(3)

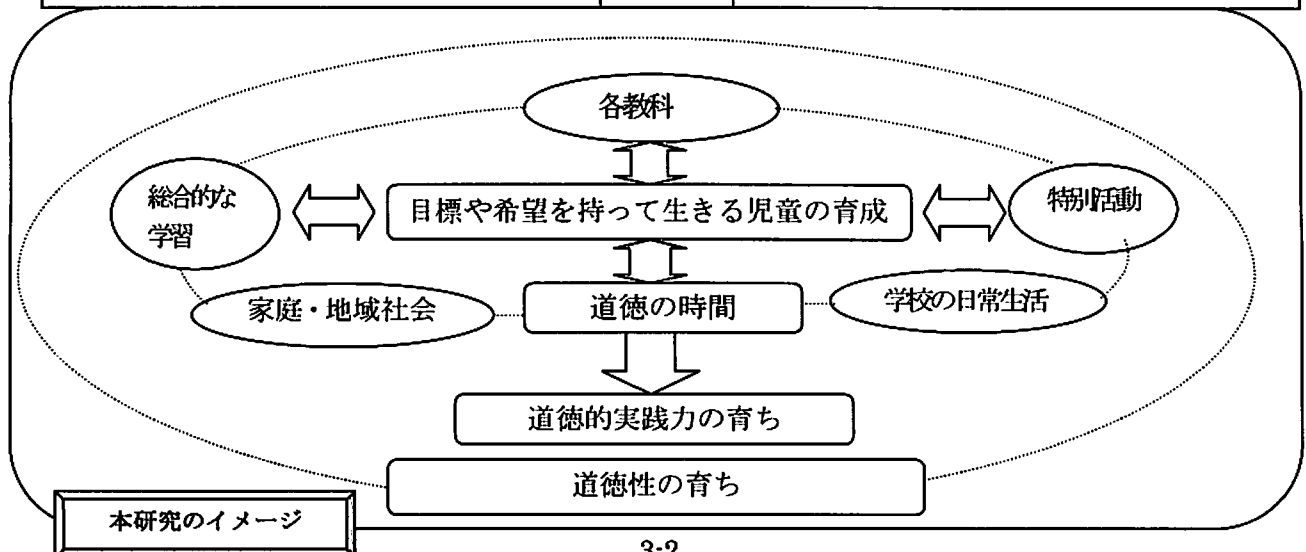
家庭や地域との連携を図ったり、身近な人材を活用したりすることで、児童の道徳的実践力が更に高まり、「目標や希望」を持って生きようとする児童が育つであろう。

基礎研究（理論研究）

- 1 「目標や希望」を育む道徳指導について
- 2 道徳の時間における「資料活用」について
- 3 道徳の時間における「発問の工夫」について
- 4 道徳の時間における「家庭や地域との連携」について

実践研究（授業実践）

- 「目標や希望を持って生きる児童の育成」を目指した道徳の授業づくり
- 1 「資料活用」を生かした授業実践
 - 2 「発問の工夫」を生かした授業実践
 - 3 「家庭や地域との連携」を生かした授業実践



V 理論研究

1 「目標や希望」を育む道徳指導について

道徳解説編に明記されている「自己の生き方についての考えを深める」こと、未来への「夢や希望」を育むことは、道徳的価値の自覚を深めるためにも大切であると捉えている。

さて、「夢」とは何だろうか。「希望」とは何だろうか。また、「目標」とは何だろうか。大辞林には、次のように示されている。

「夢」とは、「将来実現させたい願いや理想」 「希望」とは、「ある事を成就させようと願い望むこと。その事柄。のぞみ。」 「目標」とは、「目的を達成するために設けたためあて。目じるし。」

また、語源由来辞典によれば、「夢」は、明治以降、「将来の目標や希望」を意味するものとして使用されて現在に至っていると示されている。

「夢」＝「将来の目標や希望」を実現するためには、どうしても、現在において、努力を重ねることは欠かすことはできないであろうと考えている。

子どもたちは、毎日の学校生活の中でも、自己成長につながる各学年や各学期の目標を立てて学習したり生活したりしている。

そこで、下記以降、「夢や希望」を「目標や希望」に置き換えて論述していく。

「目標や希望」を育むことと同様な事柄に、「目的意識の高揚」がある。「目的意識の高揚」は、『学校教育における指導の努力点（沖縄県教育委員会）』の一つとして挙げられ、その取り組みを通して、子どもたちに「生きる力」を育むことを目的としている。

また、「キャリア教育」の観点から見ると、小学校は、進路の探索・選択に係る基盤を形成、つまり「目標や希望をはぐくむ」時期であると言われている。

それらのことから、「目標や希望」を持たせることは、道徳的実践力の育成の基盤であり、児童本人の望ましい自己の生き方を実現するために必要不可欠だと捉えている。

大江浩光(2006)は、『夢の授業』の中で、夢には、「あきなめないで生きる大切さ」「前向きに生きる大切さ」「楽しく生きることの大切さ」の、3つの学びがあることを示している。

また、押谷由夫(2006)は、「子どもたちの心の元気を育てていくのが私たちの教師の役割であり、それは、子どもたちに夢をもたせ、生命を輝かせることにほかならない」と示している。

そのために、道徳の時間を、永田繁雄(2003)が提言する「自分がわかる・他者がわかる・道徳的価値がわかる」楽しい授業にする必要を感じた。

そのような道徳の指導を通して、「望ましい自己の生き方」を実現するために大切なことを考えさせる中で、「目標や希望」が必要であることにも気付かせていきたい。

そこから、「目標や希望」を持ってよりよく生きようとする力が育成されていくものだと考えた。

2 道徳の時間における「資料活用」について

道徳解説編では、「魅力的な教材の開発や活用」について、次のことを示している。

- | |
|---|
| ◎道徳の時間の目標の達成を図り、児童に充実感をもたらすような生き生きとした指導を進めるためには、道徳の時間の資料や魅力的な教材を多様に開発し、その効果的な活用に努めることが大切である。
◎道徳の時間にを生かす教材の特性として、児童が道徳的価値の自覚を深めていくための手掛かりとして極めて大きな意味を持っている。
◎児童が人間としての在り方や生き方を多様に感じ、考えを深め、互いに学び合う共通の素材として重要な役割を持っている。 |
|---|

小淵雄司(2011)は、「道徳の時間の目的は、子どもたちに道徳的実践力をはぐくむことであり、授業で身に付けたい道徳的価値の指導を進めるための媒体になるのが資料の存在である。」と述べ、資料選択のポイントは、「児童が学習に意欲的に取り組むための道徳的価値の自覚を深める素材を選択すること」と示している。

また、資料の効果的な活用のための配慮点としては、次の3つを挙げている。

- 教師自身が感動を覚える資料を選択すること
- 児童生徒の興味関心を高める資料を選択すること
- 児童生徒が直面する課題に応える資料を選択すること

井沢純・古島稔(1972)は、『道徳授業の入門 (②発問と資料)』の中で、資料のもつ特性や道徳的価値を吟味し、児童の思考やねらいにそって資料を提示することを基盤に、資料の提示で大事なこととして、次の5つを挙げている。

- 子どもによくわかるような資料を準備すること
- 資料の提示のチャンスをつかみ、いつ出すのかを検討すること
- 資料に集中させるように、出し方を工夫すること
- いくつかの資料の組み合わせを考え、資料のもつ特性を生かすこと
- 資料の収集・整理・保管につねづね心がけること

それらのことを踏まえ、資料の選定・活用を下記のように捉え、授業実践にあたる。

道徳的価値の自覚を補充、深化、統合し、道徳的実践力を培うことができるよう、児童本人が自己を見つめ、自分ごととして考えようとする資料を選定・活用する。

なお、本研究においては、研究テーマに迫るために下記の資料を選定・活用していく。

	検証授業①	検証授業②	検証授業③
主題	困難を乗り越えて 1-(2)勤勉・努力	できたらいいな 1-(2)勤勉・努力	将来の夢 1-(2)勤勉・努力
資料・出典等	「負けない心～星野富弘～(四年生のどうとく：文溪堂)」	「ぼくのへんしん(ゆたかな心でどうとく4：東京書籍)」	①「カンボジア難民の取材から～荒巻裕～(中学3年現代の国語：三省堂)」より一部抜粋 ②大江浩光『夢の授業(明治図書)』より一部抜粋
選定・活用意図	①児童が総合学習で学んだ体験学習(福祉学習)を生かすために選定・活用 ②星野富弘さんの生き方にふれることで、感動や憧れを覚え、児童本人の望ましい生き方を考えられると捉え選定・活用	①学級の児童の様子と重なる場面や児童の気持ちに近いと捉え選定・活用 ②筆者の気持ちと児童本人の気持ちを重ね合わせて、児童本人に自己を見つめさせることができると捉え選定・活用	①新年を迎え、児童に「大きな夢と希望を持って生きる第一歩を」という思いを込めて選定・活用 ②どんなに困難な状況においても、児童に「夢は叶えることができる」という思いを込めて選定・活用

3 道徳の時間における「発問の工夫」について

道徳解説編で、教師による発問について、次のように示している。

- ◎児童の思考や話し合いを深める重要な鍵となる
- ◎児童の問題意識や疑問などを生み出し、多様な感じ方や考え方を引き出す
- ◎児童の意識の流れを予想し、それに沿った発問などを心掛ける
- ◎考える必要性や切実感のある発問、自由な思考を促す発問などを心掛ける
- ◎重要なものに絞る

井沢・古島(1972)は、よい発問と助言の条件として、次の3つを挙げている。

【よい発問の条件】

- 抽象的にならず具体的な発問であること
- 発問の意図を明確にすること
- 発問と応答の間においてよく考えさせること

【よい助言の条件】

- 賞揚する内容が入っている助言であること
- 葛藤をひきおこさせる助言であること
- 自己内省を促す助言であること

小淵(2011)は、道徳の時間における発問について、次のことを述べている。

発問は、子どものコミュニケーション能力を引き出すキーポイントである。

コミュニケーション能力を育成することは、よりよい人間関係を築き、豊かな人間性を形成することにもつながる。学級は、最大のコミュニケーションの場であり、道徳の時間において、その場をつくるのが、子どもたちの発言であり、教師の発問である。

発問は、「ことば」以上に「動作や表情などの非言語」が思考を促すものである。

思考の伝達の「ことば」よりも「動作や表情などの非言語」は、感情などを伝達して機能する。いくら「ことば」による発問を精選して発しても、「動作や表情などの非言語」が思考の妨げとなるようであったら、共感的理解は広がらない。

無意識に表れる教師の動作や表情の大切さを認識して、子どもの思考の誘いになるように心で接することが重要である。

発問は、子どもに、考えさせたい道徳的場面に着目させて、価値理解を求める教師のメッセージでもある。

子どもたちに、ねらいとする価値を身に付けさせるためには、子どもの意欲を引き出す発問づくりが大切である。その発問づくりの手順として、子どもの心を「ねらい」に向けて、道徳的価値の理解に迫らせるためには、「資料」のどこを活用するか、意図的に資料を読み解く必要がある。さらに、「資料」をどう活用するか、発問づくりと同時進行で学習指導過程を考える。ねらい、登場人物、場面等を考えながら発問を組み立て、道徳授業を構築していく。

また、道徳的価値の深化を図るために、子どもたちの意見交流を作り出す多答式的な発問も心掛けることも大切である。

これらのことを踏まえ、道徳の時間における「発問の基本」「発問の構成」を次のように捉えた。

【発問の基本】

- 発問は、道徳的な理解や判断の仕方、感情の持ち方等の深まりや、自己内省のすがたを確かめるために必要である。
- 発問は、授業の導入・展開・終末の過程にそって、ねらいとする道徳的価値の達成に向けて、意図的に使い分けする。
- 発問は、授業のねらいとする価値に向けて、使用する資料の分析、児童の反応も予想しながら準備・活用していく。
- 発問は、資料と密接に関係しており、資料の分析を十分に行い、それに応じて、ねらい達成にむけた発問を検討し、生かしていく。

【発問の構成】

- ① 「中心発問」を考える
中心発問とは、ねらいとする道徳的価値の内面的な自覚を深めるための、最も重要な発問
- ② 「基本発問」を構成する
基本発問とは、各指導過程の中で、ねらいを達成するために欠かすことができない発問
- ③ 「補助発問」を配置する
補助発問とは、話合いや思考を活性化するために、基本発問を補ったり、視点を変える発問

以上のことを踏まえ、「発問の工夫」について次のように捉え、授業実践にあたる。

児童が自分ごととして考え、児童間の多様な価値観の交流を図り、ねらいとする価値（本研究では勤勉・努力）に迫ることができる発問を工夫していく。

本研究においては、研究テーマに迫るために、下記の表1のような中心発問と基本発問を考えた。

表1 「目標や希望を持って生きる児童の育成」に迫る中心発問と基本発問

	主題名	場	発問（ ※中心発問 ○基本発問 ）
検証授業①	困難を乗り越えて	展開前段	○自分で何もできなくなるってどんな気持ちだろう ※星野さんは、なぜ、絵や詩を描くことができたのだろう
		展開後段	○みなさんは今、どんな目標がありますか ※どうしたら、自分の目標を達成することができるのだろう
検証授業②	できたらいいな	展開前段	○雄二君は、何をハッとしたのだろう ○雄二君は、どうして、逆上がりができたのだろう
		展開後段	※今、あなたが「できたらいいな」と思うことは何ですか ※今日の道徳の時間で、心に残っている言葉は何ですか
検証授業③	将来の夢	展開前段	○カンニーさんは、どうして、それを持ち出したのだろう ○カンニーさんは、どうして、看護師になりたいのだろう
		展開後段	※夢を持って生きると、どんなよさがあるだろう ※夢をかなえるために、大切なことは何だろう

また、発問に対して、児童本人が思考し自己の考えを表現したり、児童間の意見交流を図り、友だちの考えを聞いたりすることで、各児童の道徳的価値の補充、深化、統合を目指したい。

そのために、発問にそったワークシート（報告書15ページ図4）の工夫も大切だと考えた。

4 道徳の時間における「家庭や地域との連携」について

道徳解説編において、児童の道徳性は家庭や地域社会を含めたすべての環境の影響によって育まれるものであり、道徳教育は、道徳の時間を要にしながら、学校、家庭、地域社会の三者がそれぞれの役割を果たすことよって、その充実を一層図ることができる。

そのために、学校は、次のことをおさえる必要があると示されている。

- ◎家庭や地域社会が道徳教育において果たす役割を十分に認識する
- ◎家庭や地域社会との交流を密にし、協力体制を整える
- ◎具体的な連携の在り方について多様な方法を工夫する

小学校における道徳の時間は、道徳教育の目標に基づき、道徳的実践力を育成することが目的である。

そのために、児童の日常生活と密接に関連付けて指導することが欠かせない。つまり、学校における道徳の時間を道徳教育の要の時間として指導し、その中で家庭や地域との共通理解や協力を得ながら進めることで、児童の道徳性が育成されるものである。

学校で指導した内容は、家庭や地域の生活の中に反映されなければならない。また、同様に、家庭や地域での生活が学校の教育活動（授業）に生かされなければならない。

そのために、地域の教育や文化を共に創り育てるという意識の下に、よりよい協力体制をつくっていく必要がある（図1）。

学校と家庭、地域社会との連携をよりよくするためには、まずは、道徳教育の意義についての啓発を心がけることが大切である。その際、共に子どもを育てているという意識や地域での教育が大切なことを訴え、学校と連携する重要性を理解してもらうことも欠かせない。

そのために、「日ごろの交流」が重要となる。また、道徳の時間は、家庭や地域社会との連携を進めるよい機会でもある。

そこで、本研究における「家庭や地域との連携」を、下記の表2のように計画し、実践にあたる。

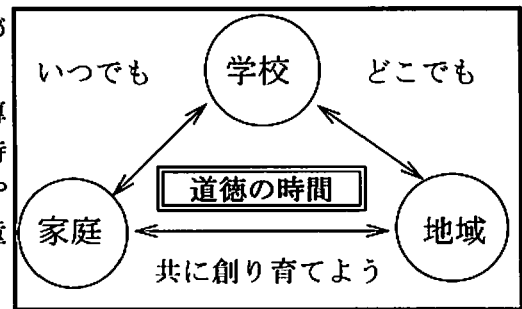


図1 よりよい協力体制

表2 よりよい協力体制の連携内容及び実践内容・場

連携内容	実践内容・場
①方針や様子を伝え要望などを聞く	懇談会等での情報交換
②道徳の時間を公開する	授業参観での公開授業
③共に学ぶ場をつくる	授業参観での公開授業
④授業の実施への保護者の協力を得る	児童への手紙作成の依頼・活用
⑤授業の実施への地域の人々や団体等の協力を得る	社会福祉団体との協力 絵本作家・現担任との協力
⑥地域教材の開発や活用への協力を得る	学芸会で劇化（志喜屋孝信物語）
⑦多様な人との交流を深める	身障者の講演会の実施
⑧地域での企画・運営に参加したり諸団体と連携したりする	新聞への作文投稿
⑨家庭や地域と一体となって道徳性を高める	P T A 作業への参加

検証授業においては、本研究テーマ及びねらいとする価値に迫ることができるように、表2の連携内容④⑤⑦を次のように進めていく。

検証授業① 〈 連携内容⑤：社会福祉協議会との協力 ⑦：身障者の講演会の実施 〉

○本時に使用する資料（負けない心～星野富弘～）を効果的に活用するために、総合的な学習の時間において行った福祉学習の様子（写真や文字）を、導入時にICTを活用し提示する。

検証授業② 〈 連携内容④：児童への手紙作成の依頼 〉

- 検証授業3週間前に、手紙作成の目的等について、依頼文を作成・配布する。
- 手紙の内容については、各児童の「よさ」や「がんばってほしいこと」を、教師が作成した見本を添付して、理解・協力を得る。
- 家庭の事情等で作成が難しい際は、保護者の了解を得て、教師が作成する。

検証授業③ 〈 連携内容⑤：現担任との協力 〉

- ねらいとする価値に迫るシナリオを作成し、身近な人材である現担任の成功体験を話すよう依頼する。
- 児童が努力の形を具体的に確認できるよう、具体物「試験勉強ノート」の提示も依頼する。

VI 指導の実際

1 検証授業計画

検証授業前に、道徳の価値項目に関するアンケート調査（10月7日実施）を行った。その結果、よさとして捉えることができる価値項目としては、「生命尊重」や「尊敬・感謝」があり、課題として捉えられるものに、価値項目「勤勉・努力」があった。

そこで、本研究においては、その課題を踏まえ、以下のように設定した。

	検証授業①	検証授業②	検証授業③
主題 価値	困難を乗り越えて 1－（2）勤勉・努力	できたらいいな 1－（2）勤勉・努力	将来の夢 1－（2）勤勉・努力
ね ら い	自己の目標や希望に向かって、努力しようとする意欲を持たせる。	自己の希望や目標に向かって、努力しようとする意欲を持たせる。	夢の実現に向けて、努力しようとする意欲を持たせる。

2 研究仮説の検証

- (1) 具体仮説(1)の検証を、検証授業①②③の授業後の児童の感想で行う。
- (2) 具体仮説(2)の検証を、検証授業②③の授業の様子・発問に対する児童の返答・授業後の児童の感想で行う。
- (3) 具体仮説(3)の検証を、検証授業②③、準備授業の様子や授業後の児童の感想で行う。

3 具体仮説(1)の検証

児童が自分ごととして考えようとする資料を選定・作成し、児童本人に自己を見つめさせることで、望ましい自己の生き方を考え、「目標や希望」を持って生きようとする児童が育つであろう。

道徳解説編において、「道徳は、自らを見つめ、自らに問いかけることから出発する。」と、示されている。そこで具体仮説(1)については、下記の表1を検証の評価の基準として活用し、分析・考察していく。

表3 資料活用の分析・考察における評価の基準

A：主として児童本人の「目標や希望」に関することを記入・・・・・・・・・・	[ある程度有効]
B：主として資料及び児童本人の「目標や希望」に関することを記入・・・・・・・・	[ある程度有効]
C：主として資料に関することを記入・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	[改善の必要あり]

(1) 検証授業の実施及び各授業の分析・考察

検証授業① 実施日：11月10日（木）5校時

- ア 主題名 「困難を乗り越えて」 内容項目1－（2）勤勉・努力
- イ 資料名 「負けない心～星野富弘～」(四年生のどうとく：文溪堂)
- ウ 本時の学習

○本時のねらい

自己の目標や希望に向かって、努力しようとする意欲を持たせる。

○授業仮説

- ・展開前段において、児童が体験した内容に関することや、感動や憧れが持てると思われる資料「負けない心」を活用することで、資料に共感し、望ましい生き方について考えようとする意欲を持つことができるであろう。
- ・展開後段において、「2学期のめあてカード」を活用し、自己評価させたり、話し合わせたりすることで、自己の目標や希望に向かって、努力していこうとする意欲が持てるであろう。

エ 展開

	学習活動 (児童の活動)	◇教師の支援 ※発問や説明 ・留意点 《うるま市実践9項目》	☆資料 ◎評価(方法)
導入 2分	1 事前に体験したことをふり返る。	・ICTを活用して提示し、時間をかけないようにする。	☆事前学習の写真や文字
展開 18分	2 資料「負けない心～星野富弘～」を読み、筆者の気持ちを話し合う。 3 作品が完成に至るまでの理由や努力を支えるものについて話し合う。	◇資料「負けない心」を前半、後半に分けて配布し、筆者の気持ちの変化や努力の様子を感じ取れるようにする。 ※自分で何もできなくなるってどんな気持ちだろう。 ※星野さんは、なぜ、絵や詩を描くことができたのだろう。 《⑥》	☆星野富弘さんの顔写真や文字 ☆「負けない心～星野富弘～」 ☆星野富弘さんが書いた詩画や本
33分 後段 15分	4 自分自身の「目標」について話し合う。 (1) 自己評価 (2) がんばったこと (3) 努力点	※みなさんは今、どんな目標がありますか。 ※どうしたら、自分の目標を達成することができるのだろう。 ◇2学期のめあてカードを配布し、自己の振り返りに役立つ。	☆めあてカード ☆ワークシート ◎自己の目標や希望に向かって、努力しようとする意欲が持てたか (観察・ワークシート)
まとめ 10分	5 授業をふり返り感想を書き、発表する。	◇書く時間の確保に努める。 《④》 ◇「活動指示の理解確認」「つまずき支援」「発表モデル児童の選定」のために机間指導を三回行う。	

オ 児童の感想内容内訳（児童の感想は、原文一部抜粋）

A 主として児童本人の「目標や希望」に関することを記入した児童数及び割合	B 主として資料及び児童本人の「目標や希望」に関することを記入した児童数及び割合	C 主として資料に関することを記入した児童数及び割合
2名 (8%)	14名 (41%)	18名 (53%)
<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは消防士になりたいので、やればできると思うのでがんばろうと思いました ・人は努力によって夢がかなえられると知りました。私はもっともっと努力し、かんしゃの気持ちも大切にしたいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・私はいろんなことからにげだしています。私も星野さんのように「負けない心」を持てるだろうか。 ・ぼくは星野さんはすごいと思いました。ぼくも星野さんのように努力して夢をかなえたいと思います。 ・わたしも星野さんのみたいに努力を大切に、かんごしになるためにがんばります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・星野さんの絵や詩がすごいと思いました。 ・かなしくなりました。星野さんは、多くの人のささえがあったから、がんばって絵や詩を書ることができたと思います ・今日の道徳はとてもよかったです。ほしのさんの話もすごかったです。

※下記以降、オ児童の感想内容内訳の「感想内容項目」は、「A：主として児童本人」、「B：主として資料・児童本人」、「C：主として資料」として述べていく。

【分析・考察①】

感想「C：主として資料」を記入した児童が18名、53%と高かった。

その要因として、授業終末の場において、資料を再提示したことで、児童の思考が資料から離れられず、自分ごととして考えることができなかつたためと捉えている。また、資料のもつ魅力を感じつつも、児童本人の生活体験とのつながりが弱かつたのではと考えた。

以上のことから、本授業における資料活用については、〔改善の必要あり〕と感じた。

検証授業② 実施日：12月8日（木）5校時

ア 主題名 「できたらいいな」 内容項目1-（2）勤勉・努力

イ 資料名 「ぼくのへんしん」（ゆたかな心で どうとく4：東京書籍）

ウ 本時の学習

○本時のねらい

自己の希望や目標に向かって、努力しようとする意欲を持たせる。

○授業仮説

- ・展開前段において、学級の児童の様子と重なる場面や児童の気持ちに近いと思う資料「ぼくのへんしん」を活用することで、筆者の気持ちと児童本人の気持ちとを重ね合わせるにより、筆者の成功体験を自分ごととして考えることができるであろう。
- ・展開後段において、ワークシートや保護者からの手紙を活用したり、自己の希望や目標を話し合わせたりすることで、自己の希望や目標や向かって努力しようとする意欲が持てるであろう。

エ 展開

	学習活動 (児童の活動)	◇教師の支援 ※発問や説明 ・留意点 <うるま市実践9項目>	☆資料 ◎評価(方法)
導入 3分	1 ことわざ「まかぬ種は生えぬ」の意味を知る。 2 テーマを確認する	○本時のねらいとする価値に関することわざをクイズ形式で提示する。 ※最近、先生が好きになった言葉を紹介します。 <①>	☆ことわざ 「まかぬ種は生えぬ」 ☆テーマ 「できたらいいな」

展開 12分 32分 後段 20分	3 資料「ぼくのへんしん」を読み、話し合う。	◇資料「ぼくのへんしん」を読んでいる途中や読み終えた後に質問し筆者の気持ちや自分の体験や気持ちを想起できるようにする。 <<⑤>>	☆副読本 「ぼくのへんしん」 (東京書籍)
	4 自分自身の「できたらいいな」について話し合う。 5 保護者からの手紙を読む。	※あなたが、「できたらいいな」ということはどんなことですか。 ◇教師の「できたらいいな」を聞き、児童本人の「できたらいいな」を考えやすくさせる。 <<⑥>> ○保護者からの手紙が届いていない児童に対しては、教師作成の手紙を届ける。又、授業後も継続して、児童への配慮や家庭との連携に努める。	☆ワークシート1 「できたらいいな」 ☆保護者からの手紙 ☆ワークシート2 「授業を振り返って」 ◎自己の希望や目標に向けて努力しようとする意欲を持たせたか。 (ワークシート)
まとめ 10分	6 授業をふり振り返り感想を書き、発表する。	※今日の授業で、「心に残る言葉」は何ですか。 ◇ワークシート2を配布する ◇書く時間の確保に努める。 <<④>>	

オ 児童の感想内容内訳 (児童の感想は、原文一部抜粋)

A : 主として児童本人	B : 主として資料・児童本人	C : 主として資料
8名 (24%)	20名 (61%)	5名 (15%)
<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは、「できたらいいな」がたくさんあります。まずは漢字を覚えるのをがんばります。 ・自分の「できたらいいな」に近づいていくためにがんばりたいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・私もゆうじさんのように、あきらめない気持ちと努力を大切にして、目標を達せたいです。 ・ゆうじさんは、自分とて鉄棒が苦手だけど、がんばってできるようになったからすごい。自分もがんばる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ぼくのへんしん」という題名だけで、「どんな話かな?」と思った。感動した。 ・ゆうじさんは、かぞくの協力があつたから、できたと思います。 ・ゆうじさんが鉄ぼうができてよかったです。

【分析・考察②】

検証授業②は、前回の授業の反省を踏まえ、児童本人がスムーズに自己内省できるよう、児童本人の生活体験に近いと思われる資料を選定した。

その結果、「C : 主として資料」が5名、15%と前回より低くなっている。

このことは、児童の思考が資料から離れ、自分ごととしてこと考える児童が増えたと捉える。

その要因として、「資料選定の改善」が挙げられる。児童の生活体験に近いと思われる資料を活用したことで、児童が筆者の気持ちと自分自身の気持ちを重ねて考え、自分ごととして考えることができたことと捉えている。

検証授業③

実施日：1月12日(木)3校時

ア 主題名 「将来の夢」 内容項目1-(2) 勤勉・努力

イ 資料名 「カンボジア難民の取材から～荒巻裕～」の一部 (中学3年国語：三省堂)
『夢の授業(筆者：大江浩光)』の一部 (明治図書)

ウ 本時の学習

○本時のねらい

夢の実現に向けて、努力しようとする意欲を持たせる。

○授業仮説

- ・展開前段において、資料を児童が理解しやすいように映像化することで、意欲的に道徳的価値について考えることができるであろう。
- ・展開後段において、ねらいとする道徳的価値に向けた発問を行ったり、身近な人材を活用したりすることで、道徳的価値について自覚を深め、夢の実現に向けて、努力しようとする意欲を持つことができるであろう。

エ 展開

	学習活動 (児童の活動)	◇教師の支援 ※発問や説明 ・留意点 <うるま市実践9項目>	☆資料 ◎評価(方法)
導入 5分	1 本時のテーマを知る。 2 友だちの「将来の夢」を知る。	◇ICTを活用して、「テーマ」提示する。 ◇事前アンケートの結果表を黒板に提示し、友だちの気持ちを読み取らせる。 <①>	☆テーマ「将来の夢」 ☆アンケート結果 ☆ワークシート
展開 前段 15分 30分 後段 15分	3 カンボジアで起きた戦時中の人々の生活について考える。	◇パソコンを活用し、映像を紹介しながら、カンニーさんの夢について考えさせる。 ◇授業の振り返りができるように、カンニーさんの想像図は黒板に提示する。	☆カンボジア国の図や地雷で右足を亡くした少年の写真 ☆カンニーさんの想像図
	4 夢を持って生きる、夢を持たずに生きることのちがいについて話し合う。 5 現担任の採用試験経験談話を聞く。	※夢を持って生きると、どんなよさがあるのだろう。 ◇児童の発言を板書し、児童が授業の振り返りができるようにする。 ※夢を実現するのに大切なこと、必要なことは何だろう。 <⑥> ◇努力の形が見えるように、「試験勉強ノート」を提示する。	◎夢の実現に向けて、努力しようする意欲が持てたか。 (観察・ワークシート) ☆努力の具体物「試験勉強ノート」
まとめ 10分	5 授業をふり返り感想を書き、発表する。	◇書く時間の確保に努める。 <④> ◇「活動指示の理解確認」「つまずきの支援」「発表モデル児童の選定」のため、机間指導を三回行う。	

オ 児童の感想内容内訳 (児童の感想は、原文一部抜粋)

A：主として児童本人	B：主として資料・児童本人	C：主として資料
6名 (18%)	25名 (76%)	2名 (6%)
<ul style="list-style-type: none"> ・夢はかならずかなうと信じるのはいいことだけど、ゆだんしていたらいつまでたっても実現できないと知りました。 ・自分の夢がはっきり見えてきた気がします。 ・夢をもつことはいいことだと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カンニーさんは、努力したからかんごしになれたと思います。私も将来の夢をかなえるために、毎日の勉強をがんばります。また、あきらめない気持ちも大切にしようと思いました。 ・カンニーさんはすごい。ぼくもプロサッカー選手になるために、部活の練習を休まずにがんばろうと思います。そして、夢をかなえたいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カンニーさんは、戦争中なのに夢をかなえるなんてすごいと思いました。ぼくにはできないと思います。 ・カンニーさんは、戦争でけがした人や病気の人をきっと助けたいんだと思います。

【分析・考察③】

検証授業③は、検証授業①②の反省・課題を踏まえ、新年を迎え児童に「大きな夢と希望を持って生きる第一歩を」という思いから、それに関する資料『夢の授業』の一部を選定・活用した。

また、どんなに困難な状況においても、「夢は叶えることができる」という思いから、カンボジア国の内戦中に夢を叶えた女性の生き方を取り上げ、児童が理解しやすいように映像化（パワーポイントによる提示）を行った。

その結果、「C：主として資料」の感想記入は2名、6%と低くなり、「A：主として児童本人」と「B：主として資料・児童本人」の合計が31名、91%と高い結果であった。

このことは、児童本人が自己の将来の夢の実現に向けて、努力していこうと気持ちが持てるであろうと思われる資料を、1月上旬の新しい年を迎えた時期に授業を実施したことや、児童が理解しやすいように映像化したことが効果的であったと考えた。

その結果、児童の思考が資料から離れ、自分ごととして考えることができたと捉えている。

(2) 仮説の検証

検証授業全体の資料活用に関する児童の感想変容（図2）によると、検証授業を重ねるごとに、「B：主として資料・児童本人」が増加、「C：主として資料」が減少している。

これは、児童の思考が資料から離れ、自己を見つめることで、道徳的価値について考えられるようになったからだと捉えている。

その要因としては、児童本人の生活体験に近いであろうと思われる資料を選定・活用したことや、選定した資料提示の時期や映像化した工夫が挙げられる。

検証授業③においては、「A：主として児童本人」「B：主として資料・児童本人」の合計が94%と高い結果になっている。この結果は、これまで以上に、児童の思考が資料から離れ、自己を見つめ、児童本人の夢や希望についてより考えた結果だと捉えている。

また、「A：主として児童本人」については、検証授業②よりは減少しているが、このことは、児童にとって身近な現担任の体験談を直接聞いたことや、努力の具体物「試験勉強ノート」を実際に見ることができたため、児童が強い感動を覚えた結果だと捉えた。

これらのことから、報告書9ページの表3（資料活用の分析・考察における評価の基準）に照合して考えると、[ある程度有効]であったと捉えている。

また、児童の感想の中に、本研究に関するキーワード（努力や目標、あきらめない等）や、支えられていることへの感謝の気持ち、自己反省の感想も出てきた。

このことは、児童本人の道徳的実践力が高まりつつあると捉えている。

そして、アンケート「将来の夢や希望を持っている（図3）」からは、否定的な回答から肯定的な回答へと、児童の意識の変容も見られた。

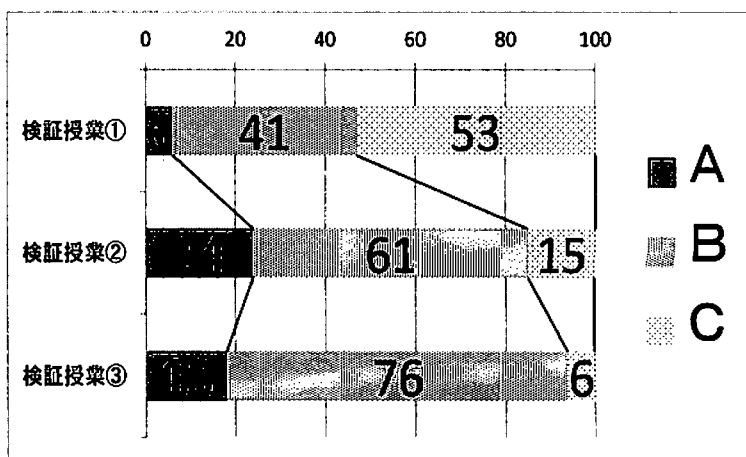


図2 資料活用に関する児童の感想変容 (%)

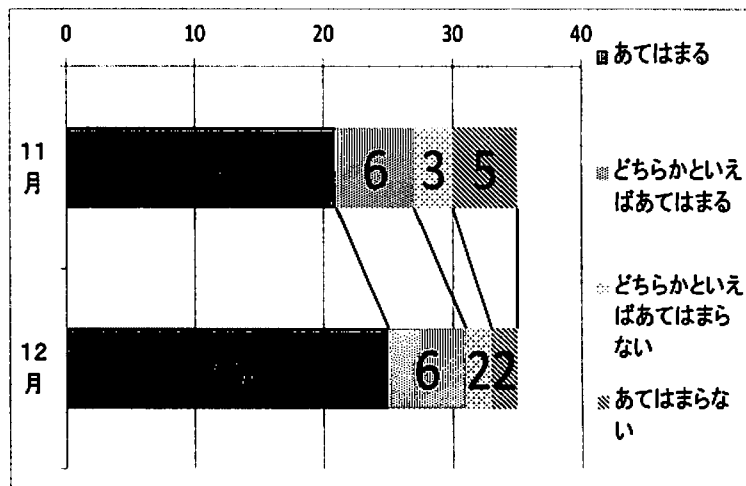


図3 将来の夢や希望を持っている (人数)

また、現時点において、将来の将来の夢や希望がわからずに迷っている児童も、授業後の感想から、「がんばりたい」「あきらめない気持ちが大切だ」等、前向きに自己の生き方を考えている様子も見られた。

以上のことから、本研究の授業で選定・活用した資料は、児童が自分ごととして考えることができ、児童本人が自己を見つめ、望ましい自己の生き方を考えることに、〔ある程度有効〕であったと捉えている。同時に、「目標や希望」を持って生きようとする児童を育てるためにも効果的であると考えた。

そして、資料とは、「児童本人が自己を見つめ、自分ごととして考え、道徳的価値の自覚を補充、深化、統合し、道徳的実践力を培うことができるもの」と、より認識を深めるに至った。

4 具体仮説(2)の検証

ねらいとする価値に迫る中心発問を精選したり、児童間の多様な価値観の交流を図ったりすることで、「目標や希望」を持って生きようとする児童が育つであろう。

(1) 検証授業の実施及び各授業の分析・考察（下記以降、各検証授業のイウエを省略）

検証授業② 実施日：12月8日（木）5校時

ア 主題名 「できたらいいな」 内容項目 1 - (2) 勤勉・努力

表4-① ねらいとする価値に向けた中心発問及び児童の返答

※中心発問1：みなさんが今、「できたらいいな」と思うことは何ですか（複数回答）	
①学校生活（行事）に関すること	33名（97%）
②友だちに関すること	30名（91%）
③将来の夢に関すること	30名（91%）
④学校生活（教科）に関すること	23名（68%）
⑤部活動や習いごとに関すること	17名（50%）
⑥家族に関すること	16名（47%）
⑦身体や性格に関すること	8名（24%）
⑧非現実的（空想）な事に関すること	4名（12%）
※中心発問2：今日の授業で、「心に残る言葉」は何ですか	
①ねらいとする価値に関する言葉	10名（29%）
②タイトル	10名（29%）
③ことわざ	8名（24%）
④手紙に関する言葉	4名（12%）
⑤資料に関する言葉	1名（3%）

【分析・考察①】

検証授業②における中心発問1に対して、学校行事に関することを34名中33名が返答した。また、児童本人の日常生活におけることを全児童2～3点は記入していたものの、ねらいとする価値に沿わない「非現実的なこと」を返答した児童も34名中4名いた。

その要因として、発問を行った際に、期待・予想していた児童の反応がなかったので、そこで補助発問「がんばっているんだけどまだできない。できるようになりたいことは何ですか。」を行った。すると、更に悩んでいるような児童の表情が見られた。

このことは、中心発問1及び補助発問が、児童にとって、ねらいとする価値に向けては抽象的、曖昧な発問であったことを示すものだと考えた。そのため、児童本人が自己を見つめることができなかつた結果だと捉えている。

もし、この発問を「みなさんが今、学校や家庭、地域の中で、がんばっているんだけどまだできないこと。できるようになりたいと思うことは何ですか」と、発問の意図を焦点化していたら、児童が自分ごととして考えることができたのではと考えた。

中心発問2に対しては、全児童が返答することができたが、ねらいとする価値に関する回答は29%と低い結果であった。

これらから、道徳的価値に迫るよう意図的・段階的に発問を行うことの必要を強く認識した。

検証授業③ 実施日：1月12日（木）3校時
 ア 主題名 「将来の夢」 内容項目1－（2）勤勉・努力

表4-② ねらいとする価値に向けた中心発問及び児童の返答

※中心発問1：夢を持って生きると、どんなよさがあるだろう
①がんばれるから・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19名（58%） ②目標にもなるし、役にたつと思う・・・・・・・・ 7名（21%） ③やる気、元気になる・・・・・・・・・・・・・・・・ 2名（6%） ④自分に勇気をもたせてくれる・・・・・・・・・・ 2名（6%） その他（各1名）◇自分自身を成長させてくれる。 ◇いいことがありそう ◇夢を実現した時にうれしいから ◇楽しい。 ◇喜びがうまれる。等
※中心発問2：夢をかなえるために、大切なことは何だろう
①努力 ②ささえ ③あきらめない気持ち

【分析・考察②】

検証授業③は、「予想される児童の反応」を踏まえて、発問を検討・精選してみた。

その結果、中心発問1に対して、全児童が自分なりの考えをスムーズに記入することができていた。また、児童の返答から、児童は夢を持って生きることの大切さを実感していると思われ、報告書9ページの表3（資料活用の分析・考察における評価の基準）に照合して言えば、〔ある程度有効〕であったのではないかと捉えている。

中心発問2に対しては返答内容が少なかったが、授業中の様子から、殆どの児童がねらいとした価値について考えているようであった。

また、発問に即したワークシート（図4）を作成・活用した。

その結果、殆どの児童が発問に対しての返答を速やかに記入し始めた。そして、普段は発言しない児童2名が自主的に発言した。

このことから、ねらいとする価値に迫る発問に即したワークシートは、道徳解説編に示されている「児童一人一人が、一定の道徳的価値に含まれるねらいとのかかわりにおいて自己を見つめ、

図4 発問に即したワークシート

道徳的価値を発達段階に即して内面的に自覚し、主体的に道徳的実践力を身に付けていく」ことに繋がると捉えている。

発問に即したワークシートは、児童の心情を表現することができ、児童間の意見交流に効果的であると捉え、今後も継続して作成・活用していきたいと考えた。

また、ワークシート内に学校名の記入欄を設けることで、愛校心を育むことにつながると捉えている。

発問2の改善点としては、「自分自身の夢を叶えたい。そのために、あなたはどんなことを、どんなふうに行いますか」等、発問を焦点化したり、揺さぶり発問（行為や行動に対しての児童の価値選択に問かける発問）を行ったりする。

また、児童間の多様な価値観の交流を図ることで、道徳的価値の深化に繋がったのではないかと考えた。

そうすることで、道徳の時間において培った道徳的実践力が児童の日常生活における道徳的行為・道徳的習慣に結びつくであろうと思われる。

(2) 仮説の検証

検証授業②後、アンケート「昨日の道徳の時間～できたらいいな～は、自分の希望や目標に向かって、がんばろうという気持ちになりましたか」調査（図5）を行った。

その結果から、教師自身、発問の課題を感じているが、ペアや全体で話し合わせたり、児童間の多様な価値観の交流を図ったりしたことで、児童は、自分の希望や目標について考え、それに向かってがんばろうという気持ちになっていたと読み取れた。

また、検証授業③における児童の感想から、本時における価値について記入した児童が90%以上がいた。

以上のことから、具体仮説(2)発問の工夫については、全体的には課題や改善点を感じつつも、ねらいとする価値に迫るために、児童間の意見交流を図ることは有効であったと捉えている。

今後は更に、授業前の資料分析や予想される児童の反応を踏まえて、発問を精選・焦点化することで、ねらいとする価値に向けて、児童が自分ごととしてより考えることができるであろうと考える。同時に、児童間の多様な価値観の交流を図ることで、道徳的価値の更なる深化に繋がるであろうと考えた。

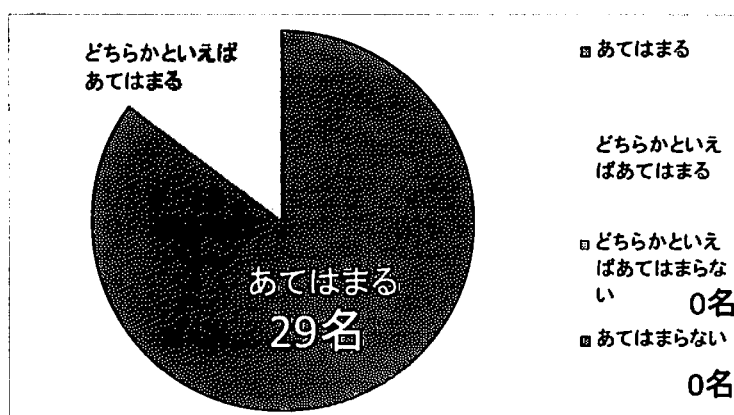


図5 昨日の道徳の時間～できたらいいな～は自分の希望や目標に向かってがんばろうという気持ちになりましたか（人数）

5 具体仮説(3)の検証

家庭や地域との連携を図ったり、身近な人材を活用したりすることで、児童の道徳的実践力が更に高まり、「目標や希望」を持って生きようとする児童が育つであろう。

(1) 検証授業の実施及び各授業の分析・考察（下記以降、各検証授業のイウエを省略）

検証授業② 実施日：12月8日（木）5校時

ア 主題名 「できたらいい内容項目1－(2) 勤勉・努力

表4 保護者からの手紙の活用に対する児童の感想

- ・お父さん、お母さんからの手紙は感動しました。きょうは、努力すれば必ずいいことがあることがわかりました。
- ・お母さんからの手紙が読めてよかったです。けんかした時などは、お母さんから書いてくれた手紙を思い出したいです。
- ・お母さんからの手紙で、明るいと言われてうれしかったです。字をていねいにかくこと、ごはんを早くたべることと言われてたけど、とてもいやだったけどがんばりたいです。また、自分のことをちゃんとみなおさないといけいなと思いました。
- ・ぼくはお父さん、お母さんにかんしゃしています。なぜなら、試合の時にはおうえんにきてくれたり、弁当をつくったりしてくれるからです。ぼくは、もっと練習してうまくなろうと思います。お父さん、お母さん、これからもよろしくお願いします。がんばろうと思いました。

【分析・考察】

授業後の感想に、保護者からの手紙に関する内容を記入した児童は、12名、35%であったが、殆どの児童の感想は手紙を贈られて嬉しい気持ちや支えられていることへの感謝の気持ち、自己反省、そして前向きに努力していこうとする内容であった。また、手紙を読んでいる時（写真1）の児童の表情はとても生き生きしていた。



写真1 保護者からの手紙を読む児童

このことから、本授業における家庭との連携（保護者の手紙の活用）は、授業中の児童の様子や感想から、かなり効果的であったと捉えている。

検証授業③

実施日：1月12日（木）3校時

ア 主題名 「将来の夢」 内容項目1－（2）勤勉・努力

表5 現担任の協力（採用試験経験談話）に対する児童の感想

- ・先生は、学校の先生になるしけんを9回もうけて合格したのですごいと思いました。私も努力して自分の夢を絶対になげたいと思います。
- ・ぼくは、〇〇先生が4かいも夢がかわったことを知りませんでした。しかも、9かいもしけんしたし、5さつのノートを見たときはびっくりしました。ぼくもそんな大人になりたいです。
- ・〇〇先生の話をととてもくわしく聞きました。〇〇先生は、5さつもノートをつかったそうです。ゆだんしていたことを自分できづくなんてすごいと思いました。わたしも自分できづくようになりたいです。
- ・今日の授業もとても勉強になりました。〇〇先生も努力したから夢がかなったと思いました。たくさん勉強したから夢がかなったと思います。私にもがてな漢字をぜんぶおぼえられるように毎日がんばりノートを続けてかんばろうと思います。

【分析・考察】

本授業において、現担任の採用試験経験談話を聞いている時の児童の表情は、特に真剣であった。

また、現担任の努力の具体物「試験勉強ノート(写真2)」を見た時は、児童の驚きの声があがり、自然と大きな拍手が起きた。児童が感動を覚えた場面であったと捉えている。

そして、授業後の感想に、94%の児童が自自身の「目標や希望」に関することを記入していた。その中には、現担任の努力に関する感想や、「自分も先生のように、努力できる大人になりたい」等の憧れや自己成長を願う内容もあった。

このことは、児童にとって身近な担任の経験談話を聞いたり、努力の形である具体物「試験勉強ノート」を見たりすることで、児童は感動を覚え、児童の道徳的価値の深化に繋がった結果だと捉えている。

そして、本授業における身近な人材の活用は、授業中の児童の様子や感想から、効果的であったと捉えている。



写真2 努力の具体物「試験勉強ノート」

(2) 仮説の検証

本研究における検証授業においては、家庭や地域との連携「保護者からの手紙の活用」、身近な人材の活用「現担任の採用試験経験談話」を取り入れてみた。

どちらも、各検証授業の【分析・考察】に示したように、ねらいとする価値(本研究においては：勤勉・努力)に迫るために、かなり効果的であったと捉えている。

絵本作者の田畑ユカリさんに協力して実施した授業「テーマ：人の生き方から、自分の生き方を考えよう」では、児童は、絵本を真剣な表情で聞き入っていた(写真3)。

授業後の感想(表6)からは、作者の生き方に感動し、児童本人のことを反省し、前向きに生きようとする意欲が多々見られた。

また、保護者からの手紙ではなく、保護者に直接話してもらったり、現担任の協力を、地域の教材や人材の活用に置き換えて活用したりしても、児童の道徳的実践力が高まるであろうと考える。

以上のことから、家庭や地域との連携を図ったり、身近な人材を活用したりすることは、道徳の時間を充実させ、児童の道徳的実践力を高めることができると捉えた。

そして、道徳の時間において、児童一人一人の道徳的実践力を高めることを通して、道徳的行為や道徳的習慣につながり、「目標や希望を持って生きる児童」が育つであろうと考えた。

そのために、報告書7ページ図1のような、学校・家庭・地域の「いつでも、どこでも、共に創り育てよう」というよりよい協力体制を築き上げることが大切であると実感した。

なお、家庭との連携をより密にし、児童のよりよい変容に繋がるよう長期的・定期的に児童の努力や進歩を評価し、勇気づけていきたい。



写真3 絵本作者との協力授業

表6 準備授業後の感想(原文一部抜粋)

- ・私は努力する人間になりたいと思った。あきらめなければ夢はかなうと知った。
- ・ぼくは今日、なぜかドキドキしていた。とてもいい道徳の授業でした。
- ・今までの自分を反省しないといけない。自分の生き方を考えることができました。
- ・ぼくは、お父さん、お母さんにありがとうといいたい。ぼくはこれからも目標を達せたい。ぼくはこれからも目標を達せたい。ぼくはこれからも目標を達せたい。ぼくはこれからも目標を達せたい。ぼくはこれからも目標を達せたい。

Ⅶ 研究の成果・課題・対応策

1 成果

- (1) 児童が自分ごととして考えるであろうと思われる「資料」を選定・活用したことで、児童本人が自己を見つめ、望ましい自己の生き方について考えたり、自己の「目標や希望」を持って生きていこうとする意欲が見られた。
- (2) ねらいとする価値に迫る発問を工夫したり、発問に即したワークシートを活用したりしたことで、友だちの「目標や希望」について触れることができ、児童本人の「目標や希望」をより考えられるようになった。
- (3) 保護者からの手紙や身近な人材を活用することで、児童本人の「目標や希望」に対する意欲の高まりが見られた。

2 課題

- (1) 児童の道徳的实践力を高めるための資料のより効果的な活用の工夫
- (2) 児童間の多様な価値観の交流をより活発にする発問の工夫
- (3) 家庭や地域と連携した計画的な道徳の時間の工夫

3 対応策

- (1) 場面構成や登場人物の心情を捉えた資料分析を更に深める。
- (2) 予想される児童の反応を踏まえ、中心発問や基本発問の焦点化や話し合いの場の工夫を図る。
- (3) 道徳の時間の公開や学級だより等での道徳に関する情報交換や共通理解を図る。

主な参考文献

- 小淵雄司 2011年 『道徳と特別活動』 8月号40頁 9月号42頁
 大江浩光 2006年 『夢の授業』 明治図書
 井沢純 古島稔 1972年 『道徳授業の入門②資料と発問』 第一法規
 沖縄県教育委員会 平成23年度 『学校教育における指導の努力点』
 文部科学省 平成20年 『小学校学習指導要領道徳解説編』

※副次的な資料として

① 道徳の時間に関するアンケート結果から

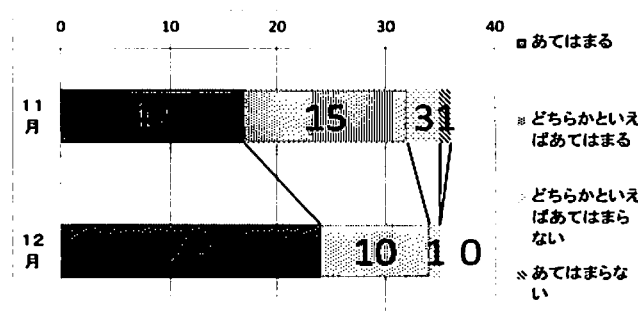


図6 道徳の時間を楽しみにしている (人数)

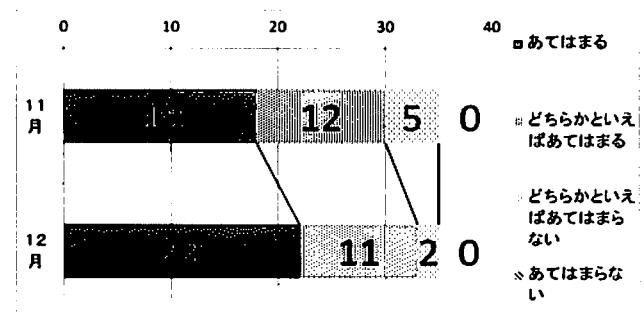


図7 道徳の時間は自分の生き方を考えるのに役立っている (人数)

検証授業前後アンケートの結果(図6・7)から、児童は、道徳の時間を肯定的に受け止めていることが伺える。また、日常の学校生活において、道徳の時間の話題が出たり、日記にも道徳の時間についての内容を書く児童もいるようである。

このことから、児童の道徳の時間に関する興味・関心が高まりつつあると言える。

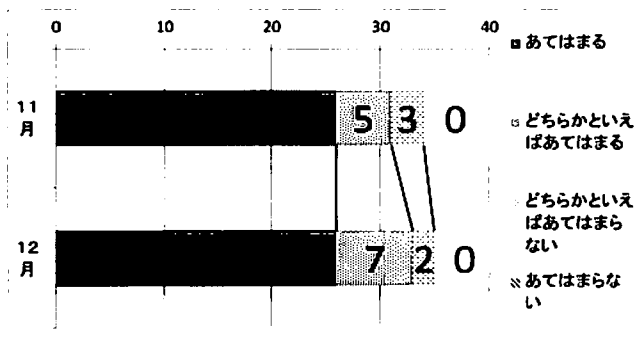


図7 今の自分より、もっとよくなりたい (人数)

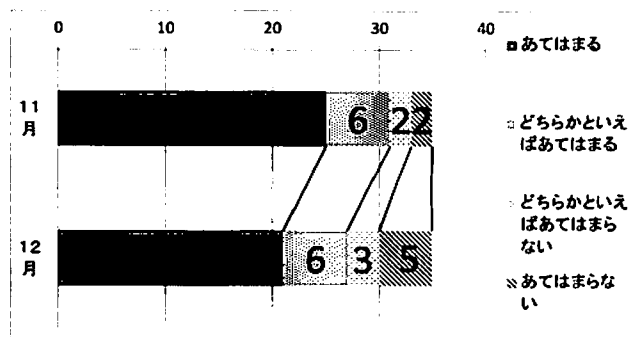


図8 現在、目標を立ててがんばっているか (人数)

児童は、「今の自分より、もっとよくなりたい (図7)」と思う反面、「現在、目標を立ててがんばっていることがある (図8)」に対して、事前調査より事後調査の方が、否定的な回答をしている。

その回答結果について、児童に聞いてみたところ、「部活動をやめたから」「がんばってはいけるけど、努力が足りないから」「もっとがんばれそうな気がする」等の返答が聞かれた。

このことから、「目標や希望を持って生きる児童」を育成するためにも、毎日の学校生活や家庭生活において、「目的意識」を持って生きるよさを継続して指導・支援していく必要があることを感じた。また、一日一日のよりよい生活の仕方によって、望ましい自己の生き方に繋がることも気付かせていきたいと考えた。

そのために、道徳の時間の充実をはじめ、各児童に学校生活における目標を具体的に立てさせ、より明確な方法で行動できるように指導・支援していきたい。

② 道徳の時間と学級活動を関連付けた指導から

第3回検証授業後、学級活動の時間において、4月から12月までの学校生活の様子を静止画上に、「目標や希望」に関する偉人等の言葉を載せてたスライドを見せた後、作文「将来の夢」を書かせてみた。

学級の全児童が、自分自身の将来の夢について書き上げることができた。児童本人及び保護者の承諾を得て新聞社に投稿してみた。下記は記載された作品の一例である。

<p style="text-align: center;">「昆虫はかせか魚はかせに」</p> <p>ぼくの将来の夢は、二つあります。</p> <p>その一つ目は、昆虫はかせになることです。ぼくは、昆虫をつかまえるのが得意で、昆虫のことを調べるのが好きです。</p> <p>今は、オオヒラタクワガタやカマキリをかっていて、本などでクワガタのことをたくさん調べました。また、夏がきたら、昆虫をたくさんつかまえたいです。</p> <p>二つ目は、魚はかせになることです。川に行き、最初のうちはあみで魚をとっていましたが、つりざおを買ってもらい、そのつりざおでいっぱい魚をつりました。コイやティラピアをつったり、グッピーやザリガニをつかまえました。とても楽しかったのでまた行きたいです。</p> <p style="text-align: right;">(男子Kさん)</p>	<p style="text-align: center;">「保育士の夢へ 一歩ずつ努力」</p> <p>私の将来の夢は、保育士になることです。そのわけは、子どもたちと楽しく過ごしたいからです。また、子どもたちに危ないことや、やってはいけないことを教えてあげたいです。</p> <p>そのために、私は勉強をちゃんとやって、危ないことややってはいけないことを守っていきたくと思います。</p> <p>また、毎日、一つ一つのことをいっしょうけんめい努力していきたくと思います。</p> <p>もし、保育士になれなくても、あきらめない気持ちをわすれないでがんばろうと思います。これからも一歩一歩ずつ、すすんでいきたくたいです。</p> <p style="text-align: right;">(女子Aさん)</p>
--	--